

令和6年度 政務活動報告書(会派用)

会 派 名
代表者名

市民の会
伊藤 優太

政務活動テーマ	活 動 内 容
仙台市政に関する市民意向調査と広報広聴	仙台市政に関する市民意向調査を実施した。 調査項目は、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の建設に対する賛否や整備費の妥当性、子育て支援のあり方、市長公用車の使用状況、仙台駅前再開発の進め方、いじめ対策など、多岐にわたった。 約350億円が見込まれる音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の整備費に関しては、「高すぎる」との回答が799票(39.8%)と最も多く、「高いがやむを得ない」が395票(19.7%)、「適切だと思う」が611票(30.5%)という結果となり、費用に対する批判的な意見が目立った。 子育て支援策については、「評価する」が604票(30.1%)と一定の支持がある一方で、「評価しない」は289票(14.4%)にとどまり、「どちらとも言えない」が1,113票(55.5%)と過半数を占め、多くの市民が中立または様子見の姿勢を示している。 議会質問や質疑で継続的に取り上げてきたいじめ対策に関しては、「評価する」が878票(43.8%)だったのに対し、「評価しない」は1,128票(56.2%)で、否定的な評価がやや上回る結果となった。 また、市長公用車に関しては、約850万円の高級車(マッサージ機能付き)に対し、「不適切」との声が多く、強い批判が寄せられた。 仙台駅前再開発については、「どちらとも言えない」が最も多く39.8%を占めた。次いで「賛成」が30.5%、「賛成と認めざるを得ない」が19.7%となり、賛成寄りの意見が合計で50.2%を占めた。一方、「どちらかといえば反対」が7.3%、「反対」が2.7%で、反対意見は合わせて10.0%にとどまった。 回答者の属性を見ると、性別は男性43.8%、女性56.2%。年代別では40代以上が多数を占めた。これは、調査が主に固定電話を対象に実施されたことに起因し、比較的高年齢層に回答が偏る傾向があった。 若年層の回答が著しく少なかったことから、調査結果全体にも一定の偏りが生じている点には留意が必要である。また、今回の調査を通じて、市政に対する市民の不満や不信感が浮き彫りになった点も看過できず、今後の議会活動に反映していく必要がある。 今後の課題として、若年層の意向をどのように把握していくか、また調査の方法や対象のあり方についても検討が求められる。より多様な市民の声を公平に反映できる手法の工夫が必要である。なお、今回の調査結果の一部は市政報告にも掲載し、市民への情報提供と議論の材料として活用した。また、広報広聴の一環として、ハガキ郵送や報告紙のポスティングに加え、河北新報への掲載も行い、より幅広い層への周知に努めた。 令和7年度予算の審査にあたっては、こうした市民の声を踏まえ、特に「音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設」に関する事項および「市長公用車の運用」に関する調査結果について、議決の賛否を判断する際の参考とした。

※ この報告書は収支報告書に添付してください。